宇部日報　2020年〈令和2年〉　9月9日 水曜日　〈日刊 日・祝日除く〉

10日は「下水道の日」

「町をきれいに」役割PR
全国で啓発運動を展開

10日は国土交通省や環境省などが主唱する「下水道の日」。その役割を国民に広く知ってもらい、普及促進を図るため、1961（昭和36）年に制定された。第60回の今年度は「マンホール　町をきれいに　するとびら」を推進標語とし、この日を中心に全国各地で啓発運動が展開される。

「下水道の日」は、普及（当時の普及率6％）を図る必要があるため、当時の雨水と汚水処理を所管していた建設省（現在の国土交通省）、厚生省（現在は環境省に所管変更）などが協議して「全国下水道促進デー」として始まった。

2001年には、日本における近代下水道の基である旧下水道法が制定された1900（明治33）年から100年が経過。その記念行事が行われたことや、21世紀のスタートの年に当たることなどから、近年の下水道に対する意識の高まりもあり、より親しみを持ってもらおうと現在の名称に変更された。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、立春から数えて210日を過ぎた台風シーズンの220日が適当とされたことによる。

宇部市の下水道は明治の終わりごろ、石炭の積出港として新川地区が市街地を形成し、その人口の急激な増加に伴い、衛生上の問題から簡易下水道工事に着手したのが始まり。その後、市街地が東西に発展したことから、1921（大正10）年の市制施行に当たって下水道が計画され、延長約1万4600㍍の排水管工事に取り掛かった。

戦後は戦災復興事業と併せて、市街地の中心部を流れる真締川を境として東西の処理区に分割。処理場2カ所を含む479㌶の合流式下水道計画を立て、48年に事業認可を受け事業に着手し、西部処理区は61年5月、東部処理区は62年9月に供用開始をした。

その後、分流式による事業に着手。現在は全体計画面積5199㌶とし、そのうち事業計画面積3744㌶の区域内で整備を進め、2020年3月31日現在、2881㌶の整備を終えた。

楠地区は、1995年に旧楠町が楠処理区として下水道計画を立てた。全体計画面積を264㌶とし、そのうち事業計画面積182㌶の区域内で整備を進め、20年3月31日現在、163㌶の整備を終えている。

西岐波地区の浜田川以東と東岐波地区は、隣接する旧阿知須町と共同処理するため1991年5月に宇部・阿知須公共下水道組合を設立。阿知須処理区として下水道計画を立て、宇部市区域の全体計画面積を970㌶とし、そのうち事業計画面積478㌶の区域内において整備を進め、2020年3月31日現在、325㌶の整備を終了した。

04年11月1日に新市としてスタートした宇部市の公共下水道は東部、西部、阿知須、楠の4処理区からなり、市全体の汚水人口普及率は20年3月31日現在で77・5％。雨水については面積整備率23・3％となっている。

14年4月1日、水道事業と下水道事業とが組織統合を行い、市上下水道局が発足した。

見初小の図案

オリジナルのマンホール蓋
5校の児童がデザイン

宇部市上下水道局では、小学生に下水道を身近に感じてもらうため、見初、恩田、上宇部、小羽山、船木の5校からマンホール蓋の図案を募集した。来年2月ごろ、各校内にある蓋に子どもたちのデザインが採用される。